

## 第3回地域福祉計画策定検討委員会 会議録

日 時 平成29年3月13日 午前10時00分開会  
午前11時00分閉会

場 所 小田原市役所 601会議室

出席委員 木村秀昭委員、杉崎勲委員、吉田トシ子委員、市川昭維子委員  
二見健一委員、松原宣孝委員、長岡正委員、久保寺征一委員  
原徳美委員（ :委員長、 :副委員長）

### 事務局

（小田原市） 福祉健康部長、福祉健康部副部長、福祉政策課長、地域福祉係長  
福祉政策課主査

（社会福祉協議会）事務局長、事務局長代理、主任主事、主事

傍聴者 なし

### 議 題

1 小田原市地域福祉計画及び小田原市地域福祉活動計画（案）について

#### 事務局

（説明）

- ・資料1「第3期小田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画に対する市民意見の募集結果について」

資料2「第3期小田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画（素案）の修正事項等」、「小田原市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）計画書」に基づき説明。

#### 二見委員

（意見）

- ・ソーシャルキャピタルの醸成とはどういうことか。

#### 事務局

（説明）

- ・巻末に用語説明があり、ソーシャルキャピタルについても解説している。長岡委員よりご提言をいただき「計画の推進」の中に反映したものである。ソーシャルキャピタルの語意は、「人々の協調活動を活発にすることによ

って、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴」であり、そういったものが醸成されていくことが地域福祉を発展させていく上で重要であるというものである。

#### 長岡委員

(意見)

- ・社会がひとつになって意識と信頼を積み上げていく、醸成していこうという考え方で、実行する人を限定することなく皆でやっていこうというものである。人を指すことも物を指すこともある。

#### 事務局

(説明)

- ・社会資源という言葉が英語で言うとソーシャルキャピタルになると思うが、人のつながりや組織、民間事業者の活動も含めて福祉のために役立つハードやソフトを作っていくということがソーシャルキャピタルの醸成であると考えている。

#### 木村委員長

(意見)

- ・巻末に用語説明はあるが、文中にも印をつけて用語説明に導くような形にしたほうがいいのではないかと思う。

#### 久保寺委員

(意見)

- ・この計画をもとに詳細計画が策定されていくことになると思うが、詳細計画では市民からの称賛が得られるような施策をお願いしたい。
- ・敬老会の対象年齢が75歳から77歳に引き上げられたが、民生委員の立場から見ると、一部にはまだまだ祝ってもらう年齢ではないという意見の方もいるが、ほとんどの方は敬老会を楽しみにされている。支給額を下げた年齢は変えずに続けるなど方法がなかったのかと思う。
- ・一例として挙げさせていただいたが、市民から喜ばれる、血も涙もある施策を期待するものである。

#### 木村委員長

(意見)

- ・今回の成果は、市と社協の計画が1冊にまとめられたことにあると思う。施策と活動の関連性が明確になり、非常にわかり易い。

#### 杉崎委員

(意見・要望)

- ・市から計画書等が配布される場合、回覧用に1冊配布されるのみであり、全戸分は用意されていない。ホームページに掲載してあるとのことだが、周知の仕方としてこの方法でいいのか疑問に思う。
- ・回覧で周知という方法ではなく、概要版を作成して全戸配布をするなどして、周知していかなければいけないのではないかと思う。地域福祉計画についても同様に思う。

#### 事務局

(回答)

- ・周知の方法については、考えていかなければならないと思っている。
- ・試験的ではあるが、地区社協(Cブロック)の会合においてケアタウン構想について説明する機会があり、地域福祉計画についても説明しようと考えている。状況にもよるが、今後他ブロックにおいても説明会を開いていければと考えている。
- ・高齢者の方にホームページの閲覧をお願いしても、なかなか難しいことなのではないかと思う。普及啓発に向けて簡易版の作成等についても今後の課題として考えていきたい。

#### 木村委員長

(意見)

- ・今の冊子を全戸に配布することは難しいと思うが、簡易版等を作成し市民が活用できる方法を考えてもらいたい。

#### 事務局

(回答)

- ・計画そのものを紹介しても見てもらえるかどうか分からない。社協では年に4回新聞を発行しており思った以上の反響がある。内容は社協活動の紹介であるが、活動の根幹にある計画と結び付けて紹介できれば、興味を持っていただけるのではないかと考えている。

#### 久保寺委員

(意見)

- ・ 社協の新聞は地域の具体的な活動が紹介されており、見る側にとっても身近に感じられるものである。絵や写真を使いながら広報していくのがいいのではないかと思う。

#### 木村委員長

(意見)

- ・ 言われるとおりだと思う。今後も絵や写真を使いながら判り易い新聞等を発行して行って欲しい。

#### 松原委員

(意見)

- ・ 12ページの健康のグラフについて、一言述べさせていただきたい。グラフから悪性新生物と心疾患が伸びている状況が見て取れるが、医療については特に記載がないように思われる。健康について本文で触れていないのであれば、敢えてグラフは載せなくてもよかったのではないかと思う。

#### 事務局

(回答)

- ・ 3ページをご覧いただきたい。今回協議していただいている地域福祉計画及び地域福祉活動計画を含めた小田原市の計画の階層図となっており、地域福祉計画・地域福祉活動計画の下に関係する個別計画が示されている。松原委員ご指摘の健康に係る部分については、小田原市健康増進計画の中で詳細な内容が記載されている。
- ・ 10年前との比較で、在宅で亡くなる方が増えている。往診してくれる医者が増えたことによるものだが、地域医療が連携し在宅の生活を助けていかなければ成り立たないものである。医療に関する連携は別の計画で策定していくことになっていくと思うが、それを支えていくもうひとつの柱が地域の助け合いであり、今回の計画にあたる部分である。
- ・ 各計画の中でカバーすることによって安心できる地域というものを作っていけたらと考えている。

#### 二見委員

(意見)

- ・ 地域福祉の理念や基本方針を定めるこの計画では、細かい事象についての検討は行われなかったということであったが、そういった事象に重大な課題があり、課題解決のために行政と住民の接点となるような計画が必要であると考えていた。
- ・ 今回の計画は社協の活動計画と一体となるということで、自分の考える行政と住民をつなぐ計画に近づいたのではないかと考えている。

**市川委員**

(意見)

- ・ 地域福祉の活動を行っていくには地域の方々の力が非常に大きいと思う。今後は地区社協の組織を強化し、人材をうまく発掘していける方法を考えていけたらよいと思う。

**杉崎委員**

(意見)

- ・ 今後、住民に対する啓発をどのように行っていくのかが課題であると思う。民間会社では施策が決まると徹底してやっていくが、市ではそうはなっていない。地域住民に啓発していくことを考えていただけたらいいのではないかと考える。

**原委員**

(意見)

- ・ 回を重ねるごとに理解を深めることができ、全体を把握することができた。市民の方々もそれぞれの経験値によって理解する時間も能力も違うと思うが、行政側は情報発信の方法にしても、常に先を考え余裕を持って対応できるようになればいいと思う。
- ・ 今回の事件で小田原が全国的に周知されたが、これを機会に小田原の福祉がいい方向に変わったと言われるようになればいいと考えている。
- ・ 会議に参加したことによって、市や社協の行っていることをより具体的に理解できた。今後は知人にも自分の言葉で計画のことを広めていきたいと思う。

**久保寺委員**

(意見)

- ・ 松原委員の質問について自分の経験からお話するが、市社協を中心に健康教室を開催し脳疾患の話をしていただいているが、あまり興味を引く内容ではなかった。講師の技量によると思うが、聞きたくなるような講義内容となるよう講師の人選も含め考えてもらいたい。
- ・ 市川委員の人材発掘についてお話するが、生活応援隊をはじめ、福祉活動のサポーターとして現在、何百人もの登録があり、活動したいという方はたくさんいらっしゃる。どうやって引き出すかがポイントであり、今後も支援等について市にお願いしていききたいと思う。

#### 長岡委員

(意見)

- ・ 今回の計画は市と市社協の計画が一体となったことで、頭に入り易くなったと思う。また、写真等を入れることによって住民にも理解し易くなっていると思う。
- ・ 医療側から見るとこれからは少子多死化の時代になっていく。生活習慣病の話が出たが、予防については個別計画の全てに当てはまっていくと思う。
- ・ ひとつのテーマを設定すると、どの計画にも課題が見つかる。個別計画を包括するのが地域福祉計画であると思うので、横の連携をとりながら課題に対応していってほしいと考える。

#### 吉田委員

(意見)

- ・ 自分としても市と市社協の計画が一体化することを考えており、そうすることによって更に大きいことができるのではないかと期待している。
- ・ 地域への周知の方法については、先ほどお話があったがブロック別の会合でケアタウン構想や、地域福祉計画についてお話いただくと民生委員、自治会、社協及びボランティアの方にも話が伝わっていくのでお願いしたいところである。
- ・ 社協の新聞の話が出たが、身近で見易い構成になっている。周知の媒体としては非常にいいものである。しかしながら、自治会未加入の方に対しての周知は難しい。全ての市民に対して周知していくにはどのような方法が

あるのか、今後も検討していかなければならないと思う。

**木村委員長**

(意見)

- ・ 市と社協が計画を策定したが、最終的に動くのは地域住民であると思う。地域住民に賛同してもらい、活動に参加してもらうことが理想であるが、壁は高いものとなっている。いかに地域住民の目に留まり足を向けてもらえるかが今後の課題である。
- ・ 地区社協の体制強化の話があったが、地区会長の下に専従の人が付かないと事業を展開していくことは難しいと思う。サポートとして「きずなチーム」が編成されているが、地区会長を一人にすることなく皆で支えていきながら活動を進めていただきたいと思っている。
- ・ 最後に、各委員の意見をいただいたが、この案を最終案として報告してよろしいか。

**委員全員**

(意見)

- ・ 異議なし。

**木村委員長**

(意見)

- ・ 以上をもって、本日の会議を終了する。